

牛久：学校周辺に見る自然

第13号 ひたち野うしく小学校

2018年5月24日発行

＜ 晩春のみずべ公園 ～①エゴノキに集まる虫たち ＞

4年生に続いて、5/8に3-5・6と、15日に3-1・3、17日には3-2・4とみずべ公園を歩いてきました。5/1の4年生の時には小さなつぼみだったエゴノキが、1週間後の5/8には半数くらい咲いていて、さらに1週間後の5/15には満開をやや過ぎてだいぶ花が落ちていました。17日にはもう花はだいぶ少なくなっていましたね。少しの間に、どんどんと季節は進んでいるようでした。



エゴノキの蜜を吸うクマバチ(上2枚)と、コマルハナバチ(左中)。花粉をなめるコアオハナムグリ(左下)。

エゴノキは、満開の時には甘い香りを漂わせていましたね。わざわざ鼻をよせなくても分かるくらい。その蜜を吸いにクマバチやコマルハナバチ、セイヨウミツバチなどが、そして花粉をなめにコアオハナムグリなどが来ていました。クマバチは体が大きく、羽音もブーンと怖いくらいです

が、ミツバチと同じくらいおとなしいハチなのだそうですよ。もちろん、つかんだりしたら刺されますけどね。くらべてみると、コマルハナバチは、ずいぶんと小さなハチだということが分かりますね。そうなる気になって図鑑を見たら、クマバチの体長が20～24mm、コマルハナバチ(働きバチ)は8～16mmと書いてありました。

次に、今回は授業中では初めて、エゴノキに来るオトシブミが見られたので紹介します。



葉を切って丸めたエゴツルクビオトシブミのゆりかご(上2枚)中には 卵 ^{たまご} が一つ入っている。羽化して出たあと(中左) 穴 ^{あな} があいている。成虫 ^{せいちゅう} (中右、下)。下の写真で、左側の首がより長いのがおす、右はめす。

11号でも ^{しょうかい} 紹介しました、エゴツルクビオトシブミのゆりかごが増えています。中には、羽化して穴があいているものも。そして、17日の2・4組の時には成虫 ^{せいちゅう} も観察できました。エゴノキの葉でゆりかごを作り首が鳥のツルのように長いのでこの名がつけましたが、おすはより長い首です。今回はバナナの房 ^{ふさ} のような虫こぶ、エゴノネコアシフシが見られませんでした、それらも ^{ふく} 含め、23年第26号、24年第48号、28年第4号などで ^{しょうかい} 紹介していますので、^{さんこう} 参考にして下さい。【理科支援員：宮内】